

第20回 青少年のための科学の祭典・日立大会

小さな鳥の資料館

動画解説書

題名 野生フクロウの成長と野鳥保護活動

終生飼養個体となった野生のフクロウの成長を見つめながら野鳥保護活動を考える。

1 野生フクロウの成長

・ヒナ預かり

フクロウは木の穴で繁殖する。フクロウが巣にしていたとは知らずに老木を切ってしまう、2羽のヒナが保護された。

・エサやり

生まれて間もない小さなヒナであったため、人に馴れないようにフクロウのお面でエサを与えた。しかし、完全に人の顔を見せずにエサを与えることは難しく、人馴れしてしまった。そのため、放鳥する事が厳しいと判断され、終生飼養個体となった。

・目測

フクロウは面白い動きをする。目測と言って、見ているものとの距離を測るために首を回すのだが、ヒナは特にその動きが大きい。

・訓練

終生飼養個体となったため、Education Birdとしてふれあい体験などの環境教育の場で活躍できるよう、訓練を開始した。フクロウが音をたてずに飛ぶ様子など、実際に飛行の様子を見て野鳥保護に興味を持ってもらえるように、エサを見せると飛んでくる訓練をしている。

2 その他の野鳥保護活動

・ミサゴの肩のマッサージ

肩を負傷していたため、マッサージをしている様子。

・セグロアジサシの水拭き取りと放鳥

セグロアジサシは小笠原諸島に生息する鳥で、台風によって飛ばされ、真水に着水して保護された。真水が付着すると飛べなくなるため、放鳥前に体の水気を拭き取った。その後、油壺をクチバシでつついて体に油を塗り、無事飛び立っていった。

・その他放鳥

その他保護された鳥たちが放鳥されたときの様子。